

2021新年
メッセージ

苦難の時代に平安と希望を与える教会

<エレミヤ書29:10～14>

総会長 中江 洋一（広島教会）



「主はこう言われる。バビロンに七十年の時が満ちたなら、私はあなたたちを顧みる。私は恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。私は、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのとき、あなたたちが私を呼び、来て私に 祈り求めるなら、私は聞く。私を尋ね求めるならば見だし、心を尽くして私を求めるなら、私に出会うであろう、と主は言われる。私は捕囚の民を帰らせる。私はあなたたちをあらゆる国々間に、またあらゆる地域に追いやったが、そこから呼び集め、かつてそこから捕囚として追い出した元の場所へ連れ戻す、と主は言われる。」（エレ29：10～14）

2022年、新年を迎え、在日大韓基督教会に属するすべての教会の皆さまに、主なる神さまの平安と希望が満ちあふれますようお祈り申し上げます。

昨年11月に、このコロナ禍にありながらも、主の恵みの中で第56回定期総会を開催することが出来ました。定期総会を開催するにあたって新たな試みを挑戦しましたが、今、教会は大きな変革を求められているのかもしれません。私たち自身の生活もウイズコロナに向かって少しずつ変化しております。しかし、私たちがそれに対応し、自分自身の新たな生活とし、そこに希望を見いだすことが出来るようになるのはもう少し後のことでしょう。今暫くは、コロナの不安を抱え、まだ暗い中を、手探りしながら前へ進むしかありません。

第56回定期総会期の主題として、「苦難の時代に平安と希望を与える教会」という主題が掲げられました。まさに、今のコロナ禍の時に、教会の在り方を的確に示している主題かと思えます。そして、この主題の聖句が、エレミヤ書29章11節の御言葉です。「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」

エレミヤ書29章は、エレミヤがバビロンへ捕囚として連れて行かれた人々に送った手紙です。その内容は、以前からエレミヤが語ってきたように、バビロン捕囚は神さまの御計画の中にあること。捕囚期間は70年ほどで、その後、エルサレムに帰還することが出来ること。その70年の間、その土地にしっかり根ざして住み着き、その土地で繁栄するように。また、その町の平安を求め、その町のために祈ること。そして、

興味深い忠告は、偽預言者に惑わされないことと、自分の夢に振り回されないことでした。人は過去の記憶と願望の狭間で生きているように思います。時に、強すぎる願望というのは、偽預言者に隙を与えるものでした。それゆえにエレミヤは正しく神の計画に目を向けるように促したのです。

しかし、捕囚の民たちに、エレミヤの言葉は届きませんでした。彼らは祖国への復帰を数年以内に起こることを当然望んでおりましたし、バビロニアのために祈ることなど許しがたいことでした。また、何よりも70年は長すぎます。捕囚として連れて行かれた者たちにとっては、そこで死ぬことを意味します。70年とは、三世代にわたっての定住ということになりますから、受け入れがたいものでした。

この70年に神さまの御計画が、確かにあったのです。国を滅ぼされ、帰国の道を断たれた民たちは、神さまが、何故イスラエルを滅ぼされたのかを求めて、父祖からの伝承を集め、編集して行きました。モーセ五書が最終的に編集されたのは、この捕囚期です。イスラエルの民は捕囚により、ダビデ王家とエルサレム神殿を中心とする民族共同体から、神の言葉、聖書を中心とする信仰共同体に変えられて行きました。イスラエルが国土を失っても民族として生き残ることができたのは、エルサレムに帰還することが救いではなく、その地において神さまと共にいることが救いであることを知った故ではないかと思われます。

解放後の在日大韓基督教会が歩んできた歴史と捕囚の民たちの歴史が重なるように思います。解放の喜びの中で、祖国に帰ることが許されず、いつしか分断の狭間の中で苦しみながら、いつまでも異国の地で生活続ける現状の中に、どうやって希望を見いだすことが出来るのでしょうか。すべてが災いの計画の中にあるようでした。しかし、そこにもまた神さまの計画があり、教会の苦難の歩みも平和の計画の中にあつたのだと思います。

「それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」

今、コロナ禍の中にあつて、教会にも変化が求められております。しかし、私たちは決して目先のことにとらわれることなく、正しく神さまの御計画を知る者でありたいと願います。10年、20年、いえ、70年以上も先のことを見据えながら、この一年、神さまの御言葉により頼みながら、今、私たちの教会に必要な変化、変革をなして行き、いつまでも将来と希望を与える教会となって行きましょう。

韓日対照聖書販売



各ページ左に韓国語（改革改版）、右に日本語（新共同訳）が掲載されています。

- A5版変型・1772ページ
- 価格：3,000円（消費税・送料込み）
- ※お求めは総会事務所へ

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格：2,500円（消費税・送料込み）
- ※お求めは総会事務所へ

2022年を迎えた各地方会会長・各団体長の抱負

関東地方会長 <李明忠 牧師>



「いちじくの木に花は咲かず／ぶどうの枝は実をつけず／オリーブは収穫の期待を裏切り／田畑は食物を生ぜず／羊はおから断たれ／牛舎には牛がいなくなる。しかし、わたしは主によって喜び／わが救いの神のゆえに踊る。わたしの主なる神は、わが力。わたしの足を雌鹿のよう

にし／聖なる高台を歩ませられる。」(ハバクク書3：17-19)

2020年に引き続き2021年も我慢と忍耐の一年となり、教会はひたすら神様の守りと導きを祈り続けた一年でありました。そんな中でも神様は変わることなく働いておられ、苦難の中でも関東地方会に属する教会を守ってくださいました。2022年を迎えるにあたって関東地方会では引き続き互いの教会の状況を共有し、祈りつつ、助け合う共同体になりたいと思います。コロナ禍の影響を受け共に集まることが難しくなりましたが、幸いにもオンラインで十分コミュニケーションを取ることができることが分かりました。広大な地方会であるため、以前から関東地方会に属する教職者が一同に集まることさえ難しい状況でありました。2022年は積極的にオンラインを駆使し、共に集まり、痛みを共有し、喜びを分かち合いたいと思います。また、首都圏におられる教職者だけが地方会の中核を担うのではなく、地方の教会を牧会されている尊い教職者にも、地方会の働きを担っていただきたいと思います。また戦いに疲れた牧会者が癒やされ励まされるセミナーなども企画し、再び宣教の使命に奮い立つ者となり、関東地方会での宣教の業が推し進められることを願っております。

たとえ2022年も暗い状況となったとしても、「しかし、わたしは主によって喜び／わが救いの神のゆえに踊る。わたしの主なる神は、わが力。わたしの足を雌鹿のようにし／聖なる高台を歩ませられる。」と告白し、確信しつつ歩む関東地方会となりますように。

中部地方会長 <金明均 牧師>



一喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く地方会を目指して一

中部地方会は、9つの教会と3つの伝道所で構成されている小さな地方会です。その中で、自立している教会は少なく、多くの教会、伝道所が、財政的困難の中

にあり、このような現状を踏まえて、With コロナの中で過ごす将来のビジョンを、個教会がどのように立て直していくかが地方会としても課題です。なかでも、無牧のまま放置され老朽化している四日市教会の建物については、対策委員会を立ち上げていて具体的な話し合いのもと、どちらにしても費用がかかりますが、取り壊す方向に進んでいます。全国の皆様、この事の為にもお祈り下さいますようお願いいたします。このたび、よりいっそう心掛けて取り組みたい課題は、以下の3つです。

- ①それぞれの教会が、より伝道に励めるように支援していく。
- ②引き続き、地方会の財政を見直し立て直していくことに協力と理解を得る事。
- ③オンライン等による地方会と教会、また人々との交流や礼拝などが出来るネットワークの広がりを進めていく。

今迄も中部地方会は協力しあってきましたが、新しい生活様式が求められ、それが定着しつつある中で、共に喜び、共に泣く、わかちあう、あたたかな中部地方会を目指して進んでいきたいと思っています。

関西地方会長 <許伯基 牧師>



2年にわたって続いているコロナ禍の中にあって、昨年は感染拡大に大慌てした一昨年と違い、各教会が「集まることの禁忌」を乗り越える対応を少しずつ身につけた一年でした。各個教会での感染対策や礼拝の配信などが熟達する一方で、各種会議にはZOOMを用いたハイブリッ

ド方式で開催しました。活発とは言えないまでも最低限の運営を守ることが出来たと思います。いまだかつてないような苦難の中に置かれた教会が、信念と知恵を持って耐え、乗り越える道を見つけれられたことは、実に貴重な体験だったと思います。

その一方で、このコロナ禍は「熱くも冷たくもなく、なまぬるい」(黙3：16) 私たちの信仰があまり出される機会だったような気がします。集まること自体がリスクと見なされる新しい価値観の中で、私たちは「信仰」と「肉の命」を両天秤に掛けるような厳しい選択を、毎主日ごとに迫られました。ある人たちは教会を去り、またある人たちは礼拝に集い続けました。「苦難や迫害の中で信仰を守る」という体験から縁遠かった私たちが、初代教会の大先輩たち、また今も他の国にあって迫害の中で信仰を守り続けている同僚たちの経験の一部を、直接味わうことが出来ているのではないかと感じながら、これもまた主が与えてくださった貴重な機会であったと信じます。

このような大きな変化の中でこそ発揮されるべき地方会のリーダーシップとは何か、という答えの出ない問いについて継続して悩みつつ、次の三つのことを今年の目標として、私は関西地方会に仕えていこうと考えています。

一つ目は、コロナ禍の収束を見据えて、対面礼拝と交わりの回復を促すことです。やはり教会にとっての命は「集い、分かち合うこと」であるからです。

二つ目はコロナ禍のために弱まってしまった地方会の働きの危機的状況をむしろ契機と捉えて、公平で公正な秩序を立ち上げることです。特に、正しい議会文化や法による統治、ジェンダーバランスへの配慮に気を配っていききたいと思います。

三つ目は積年の課題への着手です。関西地方会では、特定の個教会との関係において、ずっと先送りされてきた宿題がありますが、解決には至らずとも少なくともは始めることは出来る、と考えています。

2022年の関西地方会の運営に、主が大きな助けをくださることを願っています。

西部地方会長 <梁栄友 牧師>



——つになる地方会を目指して——

エフェソス 4 章 4～5 節「体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、」という御言葉に基づき、西部

地方会の 13 ヶ所の教会と 2 ヶ所の伝道所は一つになりたいと言う抱負を持って前進したいと思います。

特にこの 2 年間は、コロナ禍の中で礼拝や教会行事を悩み、かつ模索しながらここまで主に導かれてやってまいりました。小さな群れの地方会ですが、これからも地方会の行事や各教会の行事をどのようにして行くのかが一番の課題であります。昨年までは他教団や他地方会との交流もほとんどすることができませんでした。

西部地方会の大きな問題は、5 つの教会と 2 つの伝道所が無牧であるということです。信者たちが迷わぬように、一日も早く牧会者が与えられるように願っております。

全国教会女性連合会長 <李炫知 勸士>



振り返って見れば 2019 年 6 月に創立 70 周年記念と定期大会を恵みの中で終えて希望の新しい一歩を踏み出しましたが、コロナ禍によって礼拝の自粛や動画配信など様々な感染対策を取りながら礼拝を守る状況の中でした。女性会は新型コロナ発生以前から分かち合う場として「聖書井戸ばた」を

オンラインで開催していましたのでコロナウイルスによる非対面での環境に直ぐに対応する事が出来ました。

幸いにもオンラインに精通した委員たちの協力と奉仕によって昨年後半にはオンラインにより、聖書セミナーと研修会を開催出来るようになり、100 名近い方が参加し、分団討議も円滑に出来ました。昨年 6 月に第 63 回定期大会は緊急事態の下で選挙のやり方が確立されていなかった事で一年間非常事態に対応出来る体制及び憲章を構築することにし、本年 6 月まで定期大会を延期する事に決めました。全国女性会に協力を惜しまず寄り添って下さった 5 地方会の会長をはじめ委員、女性会員の皆様にこの場を借りて感謝を申し上げます。

コロナ禍の中で女性会は『もりもりフードパントリー』を立ち上げました。突然の解雇や雇い止めにより多くの方が困難な状況にある中で特にしわ寄せがくる移住外国人や子ども達である事を知りこの状況の中で活動を自粛するのではなく、この時だからこそ出来ること、するべき事を模索し「食料支援」を 2020 年 10 月から月 1 回の活動を開始しました。この取り組みに対して各教会の女性会員をはじめ多くの方々、各団体からのご支援ご共感を頂き私達女性会は本当に嬉しく感動しております。

これを通して物質だけではなく、子どもの学習支援、その背後にいる母親や女性のケア・支援へと繋げていければと願っています。本年 6 月に定期大会が開かれ新しい委員が選出されます。新しいメンバーが Off line から On line への移行期を果敢に切り開いていくことを願っています。女性会の活動が主にあって一つになりどんな時でも希望を抱き主の香りを放つ女性会になる事を願い祈ります。

西南地方会長 <金聖孝 牧師>



2020 年 3 月 27 日、福岡教会で持ったのが対面での最後の任職員会でした。この日から新型コロナウイルスによる感染が勢いを持って拡大し、一ヶ月後の定期総会は書面による代替開催となりました。あれから 2 年近く経っていますが、その間の任職員会

はリモートで行い、正初査経会、修養会、クリスマス礼拝などの行事は行えていません。21 年度定期総会も書面による代替開催となりましたが、郵送による役員選挙を実施し、第 71 回期の任職員会を構成することができました。

このコロナ禍で、礼拝をオンラインで捧げたり、任職員会をオンラインで開催することで感じさせられたことは、対面での諸会議や行事が本当に大切なことだと認識を新たにしたことです。特に礼拝を対面で捧げることができるということは神さまの恵みです。しかし、礼拝を捧げたくても病気や体の不自由な方とオンラインで“共に”礼拝を捧げることができるということも恵みと気付くことができました。

また、必要に応じて任職員会を機動的にオンラインで開催することも恵みだと実感しています。特に、西南地方会は山口県から九州、沖縄に至るまでの広範囲に 10 教会 1 伝道所が所在しているため、遠く離れている教会は孤立しやすく、地方会の交わりから遠ざかりやすいので、オンラインでの任職員会を開催に負担がなく、モニター越しにでもお互いの顔を確認し消息を分かち合うのにとっても役立っていると思います。

また、宇部教会と折尾教会の無牧状態が長く続いています。遠方の臨時堂会長とリモートを通して諸職会を持つなど、オンラインの活用が有効的になされています。地方の教会は同胞の少なさと様々な困難を抱えています。地方会として牧者を送って下さるよう神さまの導きを祈っているところです。

今後も、対面での会議や行事が困難であっても、オンラインの良さと利点を生かし、コロナ禍で困難を抱えている教会を支え、恵みを分かち合う西南地方会でありたいと願っています。

全国青年協議会代表 <車有吾>



新年からは、各地方会青年連合会の再建に力を注ごうと考えております。青年会が青年の暇つぶしにならないように、人間形成の場として、青年の信徒が、教会で用いられる一人一人であるために全協は存在していると考えています。自分の教会に青年

がない！先輩がない。そんな方は全協

に来てみてください。暖かく迎えたいです。

いまの時代、みんな、自分の信仰を守るのに精一杯です。仕事や勉強ばかり。週一回の礼拝に出るのがやっとだという方もいるでしょう。それ自体は大事なことです！しかし、よく考えてみてください。仕事で得をしたいがために教会に来ようにはなっていませんか？私は、イエス・キリストに遣わされる一人一人であってほしいのです。主日の礼拝を守っているなら、よく考えてください。自分がよい人間であるためにはどうすることができるのか。わたしは神さまの愛に突き動かされているのであれば、他人に自分のしてほしいことをしてあげなさい、と思っています。他人がしてくれないではありません、自分がしてほしいことなのです。自分から掛け値なしでしなさい。私たち、一人一人に働かれ知恵を授けて下さっているのはイエス・キリストです。みなさん、イエス様を誉め讃えましょう。それを実践に移すのが教会での奉仕です。

全国長老会長 <金日煥 長老>



在日大韓基督教会は歴史において、数々の苦難の時期を神様の愛と恵みで、見守られて来ました。その故、今日のコロナ禍の中においても大きな試練がありますが、神様の助けや導きによって、この苦難を乗り越えられると信じます。

ほとんどの教会で若い世代への信仰の継承問題が大きな課題になっております。若い世代ともしっかりと交流しながら若者の文化、考え方を共有し、若い人が何でも気兼ねなく話せる雰囲気と信頼関係がある共同体として信仰生活ができる環境を作れるようお祈りしましょう。

子どもの教育にもっと力を入れるべきだと思います。小さい時から神様に祈り、知恵を求める訓練ができるように子どもの目線で分かりやすい教材を作るか、韓国から良い教材を探し

て教えるべきだと思います。教育の専門家を招いて教師教育も続けていく必要があります。

若い教役者を育成するために、若い世代から神様に尽くしたい人が出るようもっと努力しなければなりません。また、神学生を把握して財政的、又は生活を見守る事も大事だと思い、新しく加入した宣教師の教育、教役者と長老の研修会を通して学びと交わりの場を増やすことも良いと思います。

財政的に厳しい教会の支援、隠退教役者の老後の生活の支援などのため、財政的に厳しいですが、献金の使い道を信徒と共有し、祈りながら一つになれば神様がこれらのすべての事を成し遂げてくださると信じます。

弱い人、病める人、老いた人に手を伸ばす事は在日大韓基督教会の伝統で、使命として続けて力を入れるべきです。在日大韓基督教会は多様化、多文化になりつつあります。これを神様の愛と主の恵みと聖霊様の交わりの中で、互いに認め合い素晴らしい共同体を作っていきます。恵み深い福音のメッセージと愛の交わりで、虹より美しい色の光を世の中に照らしましょう。

<第 56 回定期総会に決議による主に変更及び設置された事項>

1. 神学考試委員会の細則の第 8 条、第 10 条の改正

- ・第 8 条の 2。「宣教師加入考試は 1 年 2 回実施する。」を「削除」
- ・第 10 条の「伝道師と牧師の考試は、毎年 9 月に実施する。但し、KCCJ の機関誌である福音新聞を通して 3 ヶ月前に公告する。」を「伝道師と牧師の考試、宣教師の加入考試は、毎年 3 月～4 月に実施する。但し、KCCJ の機関誌である福音新聞を通して 3 ヶ月前に公告する。」と変更。

2. 総会規則の改正

昨今の新型コロナウイルスの蔓延防止措置のため、緊急事態宣言が発せられ、また、自然災害などの想定外の非常事態が生じた際に、憲法の定める定期総会の開催や常任委員会の開催ができない状況が生じている。

このような非常事態の場合、定期総会を中止または延期せざるを得ないが、中止または延期する根拠規定がない。また、開催するとしても、総代の直接参加が困難であることが見込まれるときは、オンラインによる非対面参加、そして、このような非対面による開催における決議方法について何ら規定が存しないために規則の改正を行うものである。

○第 2 章「定期総会」第 2 条「総会」1. 「定期（臨時）総会召集」

- 1) 憲法第 61 条により定期（臨時）総会を開催する。
但し、総会長は、憲法第 62 条が定める定期総会が成立する見込みがないと判断した時は、または、憲法第 61 条 1 項に基づく定期総会を召集することができないと判断した時は、常任委員会の決議を経て、定時総会を中止ま

たは延期することが出来る。

○第 2 章「定期総会」第 2 条「総会」2. 「会議決議」

- 3) 定期（臨時）総会は、災害等やむを得ない事由により通常の方法による総会を開催することが出来ないと判断された時、オンライン等を利用（あるいは併用）した非対面による方法で開催することができ、この場合、1 項の議事決議は書面で行うことも出来る。

○第 5 章「常任委員会」第 8 条「常任委員会」

6. 常任委員会は、災害等やむを得ない事由により通常の方法による委員会を開催することができないと判断された時は、議長は、オンライン等を利用（あるいは併用）した非対面による方法で開催することができ、この場合、決議は書面で行うことも出来る。

8. 常任委員会の職務権限

- 1) 総会の権限に属する事項でその委任を受けた事項。
- 2) 次期総会まで総会の通常権限に属する事項。

但し、規則第 2 条 1 項 1) により定期総会が中止または延期された時も同様とするが（役員選挙は除く）、処理事項は、次期総会において承認を受けなければならない。

3. 「教役者退職後の支援給付金規則」制定

第 55 回定期総会にて、年金規則の廃止と年金委員会が解散して新たに救済基金委員会を設置し、一括返済してからの残金 6800 万円を基に、年金設立理念を存続させる、退職教役者への支援給付金の規則と救済基金委員会の規定の制定が必要不可欠であり、将来においても基金を枯渇させない管理運営を促すものである。

讃頌歌委員会より 「子どもさんびか」が 発行されました。

主の祈り・使徒信条・交読文・十戒
集録（いずれも韓国語・日本語）
一冊 1,000 円
お問い合わせは総会事務局へ
電話 03-3202-5398



豊かな味、豊かな心。



代表取締役 吳永錫（東京希望キリスト教会 長老）

四谷本店：東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100